

《ハワイ語の発音と表記》

◆ ハワイ語の発音と日本語の発音

ハワイ語は日本語と同じように必ず母音 (A, E, I, O, U) で言葉を終わります (開音節と言います)。これは日本語とハワイ語だけの特徴です。日本人には非常に発音しやすい言葉です。発音でハワイ語と日本語と違うところは、ハワイ語には濁音 (ガ行, ザ行, ダ行, バ行) がありません。反対にワ行にはヴァ, ヴィ, ヴェがあります。子音には声門閉鎖音 (オキナ [‘]) があります。ハワイ語の特徴をまとめてみますと次のようになります。

- ① サモア語, タヒチ語, マオリ語[†]などと共にポリネシア語に属します。
- ② 音節がすべて母音で終わります。日本語の「ん」に相当する音がありません。
- ③ 母音は一つずつ発音されます。
- ④ 子音の連続がありません。
- ⑤ 清音が主となっています。(他のポリネシア言語にはザ行の濁音のあるものがあります)。
- ⑥ 子音の脱落が多く見受けられます。
- ⑦ 声門閉鎖音 [‘] (ハワイ語: オキナ, 英語: グロッタルストップ) があります。

このほかに間投詞, オノマトペ (擬音語), 繰り返し語 (疊語) が多いことも特徴で日本語と共通しています。

なお, 日本語にも薩摩, 京, 陸奥や津軽では違いがあるのと同様, ハワイ語にも各島や地域によっていろいろな違いがあります。

[参考] ハワイ語と日本語は兄弟語であるといってもよいほど似ています。『日本語はなぜ美しいのか (黒川伊保子 集英社新書) p30』では次のように述べられています。『日本語は, 母音を主体に音声認識をする, 世界でも珍しい言語である。現在, 日本語と同じように母音を主体に音声認識をする言語として確認されているのはポリネシア語族のみ (ハワイ語などはこの仲間)』。

ハワイ語のアルファベットと読み

† 地理的にはポリネシアではないが、ポリネシア語を話すところを域外ポリネシアといいます。

◆ ハワイ語のアルファベットと読み

文字のなかったハワイに文字を持ち込んだのは欧米人で、彼らはアルファベット（ラテン文字）でハワイ語を記述しました。

英語のアルファベットは26文字ですが、ハワイ語表記で使われるアルファベットは次の12文字です。他にオキナ（‘okina:HAW, glottal stop:Eng, 声門閉鎖音）の記号 [‘] と、長音記号のカハコー [-] を使います（kahakō:HAW, macron:Eng）。

発音記号（IPA 拡張）よりかな書きの方が適切

発音表記は「ひらがな」書きにオキナ [‘] およびカハコー [-] を付けておきます。日本語を母国語 [‘Ōlelo makuahine] とする日本人にとっては発音記号（IPA 拡張）よりかな書きの方が分かりやすいためです。

A, a	‘ā (‘ <u>あ</u>) .	N, n	nū (ぬ).
E, e	‘ē (‘ <u>え</u>) .	O, o	‘ō (‘ <u>お</u>) .
H, h	hē (へ).	P, p	pī (ひ).
I, i	ī (い).	U, u	‘ū (‘ <u>う</u>) .
K, k	kē (け).	W, w	wē (わ <u>え</u>) .
L, l	lā (ら).	‘	‘okina (‘ <u>おきな</u>) .
M, m	mū (む).		

[参考] 番外篇の『アクセントについて』（up 済み）、『インディ・ジョーンズとハワイ語』（up 予定）を参照してください。

ハワイ語では使われないラテン文字と読み：

B, C, D, G, J, Q, R, S, T, V, X, Y, Z はハワイ語では使われません。発音は主に英語読みです。

これらはハワイ語では使われませんが、借用語 [外来語] を表わす際に使われます。[用例] **kula/gula** (くら/ぐら)。[英語: gold (金)]。

VはWにVの音があり、ハワイ語表記には必要としませんが、これも借用語を表わす際に使われます。また、WとVの発音を明確にするために使う場合もあります。

文字が入ったため、元の音が変化したり統合されたりしました。FはHに統合されましたので、Hで始まる語にはFに近い音もあります。RはLに統合されました。

注意を要するのはSとTで、Tは個人所有のニイハウ島では現在も使用されていますが、一般的にはKに変化しています。ただし、古くから使われている言葉の中にはTで始まる言葉もあり、歌などはKをTの発音で歌うこともあります。例えばポリネシア語のタパ布 [tapa] はハワイ語ではカバ [kapa] に変化しますが、そのままタパと使われたり、おじいちゃん、おばあちゃんはクークー [kūkū] ですが、通常はツウツウ [tūtū] と発音されています。

Sも同様です。例えば、悪寒 [‘īnikiniki (‘īにきにき)] は歌の中で‘īnisinisi (‘īにしにし) と歌われることもあります。

J, Yもハワイ語表記に使われませんが、ヨーロッパではこの2字はかつてはIで表記したため借用語に名残りがあります。[用例] **lune** (いうね/ゆね)。[英語: June (六月)]。

[余談] 日本ではギリシャ文字の [π/Π] をパイと発音しますが、ギリシャ語読み (および英語圏) ではピーです。パイは [φ/Φ] の発音です。

◆ 母音の発音

ここでハワイ語の音素を説明するために使っている日本語や英語の例は、もちろん近似的なものです。

記述は 見だし語 || 英語 (内は略字) || ハワイ語 (複数あるものもある) の順

▼ **母音**: Vowels (V): woela, leokani, hua leo kahi

母音には短母音と長母音の二種類があります。ハワイ語の母音は「純」母音であって、わたり音はありません。母音には“a, e, i, o, u”があり、日本語の「あ・え・い・お・う」のように発音しますが、u (う) だけはもっと口をとがらせて発音します。「ヒョットコのお面を思い浮かべて下さい。英語の例では [moon] を発音するときの唇を十分に円めた [oo] に同様の音です。

二重母音

▽ 二重母音：Diphthongs (D)：huēwoela

二重母音の“ae, ai, ao, au, ei, eu, oi, ou, iu”は「あえ, あい, あお, あう, えい, えう, おい, おう, いう」と発音しますが1音節です。アクセントの位置も変わります。

kéiki (けいき) 子供

感違いしてならないのは、母音が続くものすべてが二重母音ではないということです。**ia** [例. **Hi'iaka** (ひ'いあか)：名前]は二重母音ではありません。

▽ 長母音：Long Vowels (\bar{V})：(woela) kō

長音記号・カハコー (kahakō, 英語：macron) [ˉ] の付いている母音“ā, ē, ī, ō, ū”は、その音を少し伸ばして「あー, えー, いー, おー, うー」と発音します(日本語の長音よりは少し短く伸ばします)。

[用例] **Waikīkī** (わいきき)：ワイキーキー。

▽ 二重長母音：Long Diphthongs (\bar{D})

二重長母音には“āe, āi, āo, āu, ēi, ōu”があります。

▽ 母音のあいまい化(曖昧化)

二重母音の一つが曖昧に発音される場合がいくつかあります。まず、[a]の後に[i]または[u]が続いた場合、母音の曖昧化がみられ[e]または[o]に同化してしまうことがあります。例えば、**ikaika** (いかいか：強い)は、**ikeika** (いけいか)に、**mau** (まう：不変の, 安定した)は**mou** (もう)となります。

また、二重母音が長音化して二語が一語に短縮される場合があります。例えば、植物のkī (ニオイシュロラン)の葉 [lau]は、

lau kī (らう・き) → **lākī** (らき) となります。

▼ わたり音について

わたり音は母音と母音の間に[y]や[w]の音が入るものです。日本語で「いう・言う・iu」は「ゆう・yuu, yū」と発音されるようなものです。

yはハワイ語では使いませんので、表記されておりません(発音される場合があります)。

lune (いうね, ゆね)：六月

lulai (いうらい, ゆらい) : 七月

日本語で自分のことを「わたし」と言い、早口やくだけた言い方では「あたし」というように [w] を含んだ語の扱いです。特に [uw] と続く語はポケット辞書などでは削除される方向にあります。

uē, uwē (うゑ, うゑ) : 泣く

uaki, uwaki (うあき, うわき) : 時計

▼ 子音 : consonants : koneka, leokanipū, hua leo hui, hua palapala leo hui

子音には “h, k, l, m, n, p, w, [‘]” があり、日本語の発音と同じように、h はハ行、k はカ行、l はラ行、m はマ行、n はナ行、p はパ行の発音をします。

[‘] は声門閉鎖音のオキナです。

w は前に来る母音によって発音が変わります。w の前に o または u が来る場合はワ行、e または i が来る場合はヴァ行の発音をします。

また w の前に a が来る場合と、語の冒頭に w が来る場合は、ワ行の発音でもヴァ行の発音でもよいのです。この w と v はともに w の近似音、v の近似音のいずれも使ったりします。

[例] ‘owali (‘おわり)	弱々しい・虚弱な
puwalu (ぶわる)	協力的な
hewa (へヴァあ)	誤り
iwi (いヱい)	骨
Hawai‘i (はわい‘い・はヴァい‘い)	ハワイ
wahine (わひね・ヴァひね)	女性

英語の [V/v] 由来の語はおおむねヴァ行の音でよいでしょう。

[用例] vinegar [食酢] → **wineka** (ヱいねか)

violin [ヴァイオリン] → **waiolina** (ヴァいおりな)

[参考] 日本語に転訛した英語の [V/v] にはワ音になった語もあります。

virnish → ワニス (塗料のニス)

virusi → ウィルス, ヴィールス

この w の発音については諸説がありますが、日本人がハワイ語を学習する場合は、前記のような説明に従い、ハワイ人がルールを決めたらそれに従うの

アクセント（ストレス）

がよいと思われます。

▽ 子音の一つオキナ（声門閉鎖音）: glottal stop : ‘okina, ‘u‘ina

声門閉鎖音‘オキナは日本語の発音にはありません。ハワイ語に独特の子音として多く見られます。強いて言えば、日本語の「待って」や「行って」のような小さな「っ」を発音する時のように、音が詰まる発音です。また、‘ala（‘あら：香り）などのように語の冒頭に声門閉鎖音記号が来る場合は、発音する前にのどを軽く閉めてから記号の付いている文字を発音すると良いでしょう。声門閉鎖音は、音が詰まるまたは途切れるように発音される音ということで、ハワイ語では‘okina（切る・砕ける・声が変わる）と呼ばれます。

〔用例〕

a‘e（あ‘え、アエ）：上の方へ

ma‘i（ま‘い、マッイ）：病気

ki‘i（き‘い、キッイ）：彫像

ku‘i（く‘い、クッイ）：突き砕く

ka‘u（か‘う、カウ）：私の物

pua‘a（ぷあ‘あ、プアッア）：豚

〔発展〕英語を母国語とする人は母音の発音が苦手なのです。特に母音の連続は発音しづらいようで、オキナはそのための記号のように思われます。日本人は、おー（王様の王）とおう（責めを負う）は普通に使い分けしています。日本人にとってはオキナははっきり発音すればよいのです。外国語としてのハワイ語をカタカナ表記する場合はオキナを意識して「ッ」を表記する必要はありません。

〔用例〕前項の語はそれぞれ、a‘eは「アエ」、ma‘iは「マイ」、ki‘iは「キイ」、ku‘iは「クイ」、ka‘uは「カウ」、また他動詞化・使役動詞化の接頭辞 ho‘o-も「ホオ」と発音したり表記すればよいでしょう。

なお、Hawai‘iは同様に「ハワイッイ」でなく「ハワイイ」ですが、この語は「ハワイ」として日本語化しています。

◆ アクセント（ストレス）: accent : kālele, kālele leo, ko‘iko‘ina

—このアクセントの項は『ハワイ語講座番外篇《アクセントについて》』（up 済み）を合わせてお読みください—

1. アクセントは通常、最後から2番目の音節に付けられます。ただし、1（単）音節にはすべて付けられます。

2. 二重母音の“ae, ai, ao, au, ei, eu, oi, ou, iu”は、常に最初の母音にアクセントが付きま

す。
複合語であるため、表記では二重母音のように見えるものがあります。特に注意を必要とする場合にはアクセントユニット記号を付けます。

3. 母音の上に付くカハコー [-] は、音を少し伸ばす機能を持っています。

※カハコーのついた音にはアクセントがおかれま

- す。
4. アクセントが2つ以上ある場合は、最後のアクセントを強く発音します。

makūa.híne にあるアクセントユニットマークは、本来書く場合には付けません。また、マークの [´] は [˘] より強く発音します。

〔用例〕それぞれ、C：子音，V：母音，V̄：長母音，D：二重母音，を示します。

1 音節語	CV̄	kū (kū)：直立した
2 音節語	CVCV	húla (húla)：フラダンス
3 音節語	CVCVCV	mahálo (mahálo)：ありがとう
4 音節語	CVVCVV	lèoléo (lèoléo)：声高に話す
5 音節語	CVCVV.CVCV	makūa.híne (makūa.híne)：母親
二重母音	CDCV	kéiki (kéiki)：子供
	CDCV	‘áina (‘áina)：食事
	CVDCV	Hanáuma (Hanáuma)：ハナウマ湾

Iulai_2674K

Mtos_TNK